



小学生が医学を学ぶ とうきょうキッズメディカルスクール

「とうきょうキッズメディカルスクール」は全国でも珍しい小学生のための医学教室。内科医の澤田めぐみさんが「子どもの時から自分の体のことを知ってほしい」と2011年に開校した。毎年、キャンセル待ちが出るほどの人気だ。

管を見せて示す。

続いて顕微鏡で血液を

武蔵野市吉祥寺南町のビルの一室で基礎コースの授業が始まった。受講生は小学3年から6年生まで12人。首都圏はもとより関西方面から新幹線で通ってくる生徒もいる。

観察。一人に1台の顕微鏡が用意され、スタッフ2人が机を回って操作方法を指導する。血液を塗ったプレパラートをセットし、目を輝かせてのぞき込む子どもたち。赤血球や白血球のほかに、血小板もくつきり見える。最後に血液の流れや役目を学んで、90分間の授業を終えた。

この日のテーマは「血液のひみつをさぐれ」。澤田さんがクイズを織り込んで、体重の約13分の1の重さの血液が体内にあること、11歳の子どもの場合、体重は約39kgだから約3kgの血液が流れていると、分かりやすく話す。次に血液を遠心分離器にかけて、血しょうと血球(血液細胞)の2層に分かれることを試験

墨田区から参加した4年生の女の子は「顕微鏡をのぞいたり、血液は骨髄で作られるなどいろいろ教えてもらったり、楽しかった」。母親の一人は「大人でも知らないことばかり。本物の器具に触れるのが魅力です」と話していた。

同スクールは月1回開講。年間12回のカリキュラムは「心臓のしくみ」「呼

スタッフの指導で顕微鏡を操作する小学生たち



教室では保護者たちも熱心に聞き入る

吸の不思議」「お医者さんの仕事」「外科医」「赤ちゃんはどこから来るの?」「がんの話」など医学を体系的に学べるように組まれている。今年度から基礎コースを終えた子を対象に、より深く体のことを学ぶことができるアドバンストコースも始めた。

講師は澤田さんのほかテーマに応じて外科医や産婦人科医、歯科医などが登場。授業では聴診器をはじめ胃カメラや超音波など本物の医療器具や実験器具、精緻な模型などを使う。

「わくわくするような経験をお届けしたい」と澤田さん。医学教室の開講を考えたのは5年ほど前。「小学生だった息子に体のことなど正しい知識を身につけてほしい」と思ったのがきっかけだった。

臨床医として15年間、大病院などに勤めてきた澤田さんは、体について知識がないために自身の変調を医師にうまく伝えられず、一方、医師による説明も理解できないという患者に多数接してきた。「損をしているなと思いました。子どものうちから体につい



同スクール代表の澤田めぐみさん

て学び、医療を身近に感じることが必要と痛感しました」

2011年、教室を運営する一般社団法人「メッドラーニング」を設立し、開校にこぎつけた。「体の仕組みを知ることが、命の不思議や素晴らしさを知ること。そうすれば自分の体や命、他人の体や命も大事にできるようになります」と澤田さんは話す。

(文/山田優子)

とうきょうキッズメディカルスクール

■コース:基礎3クラス、アドバンスト2クラス
■場 武蔵野市吉祥寺南町3-5-1 アカデミア吉祥寺PLUS内
(JR中央線・京王井の頭線吉祥寺駅公園口徒歩7分)
■費 月額授業料5,000円、器材費1,000円
※今年度はキャンセル待ち。授業の見学可。来年度受講希望者は秋に予定している体験教室に参加を
■問 0422-26-5585 メール:info@kidsmed.jp
ホームページ:http://www.kidsmed.jp/